

年月	主な出来事
1928(昭和3)年4月	初代伊東校長が自ら和洋図書千数百冊を寄贈して、初めて書庫の形態が整った。
1929(昭和4)年11月	図書室竣工
1930(昭和5)年2月	最初の専任係員を任命 寄贈図書の整理をはじめ図書管理規程を作り、図書取扱いの大綱が極まり開校後教室で管理していた購入図書を調査し、受入登録をすると共に、学生参考書を購入備付を行い、同時に閲覧心得を定めた。
1932(昭和7)年1月	開室(本館1階)。閲覧人数が次第に増加し、図書室の構造上様々な不便が生じた。
1935(昭和10)年5月	図書室の大改造に着手
1935(昭和10)年6月	大洪水(床上1メートルまでの浸水)が発生したが、図書資料はいち早く2階応接間に運んだので1冊も被害を受けなかった。
1935(昭和10)年9月	洪水による破損箇所を修理を行い、再開館にこぎつける。
1936(昭和11)年	病院内に図書分室を作り、主として和洋臨床雑誌を移し閲覧させていた。その後、病院分室が廃止となり和洋臨床雑誌が図書館に移された。当時、図書閲覧室および書庫は本館地下にあった。
1943(昭和18)年4月	教授団の寄贈により、115㎡の木造閲覧室を建築し、地階中央より南全部を書庫とした。
1946(昭和21)年3月	久留米医科大学図書館となる。
1950(昭和25)年3月	久留米大学図書館となり、医学部分館、商学部分館の2館体制となる。
1953(昭和28)年6月26日	未曾有の大洪水が起こり全国にも数少ない貴重な文献や施設を始め壊滅的な打撃を受け、閲覧利用できるものは皆無となったが、教職員や同窓生の援助と各方面の協力により逐次蔵書の増加をみた。
1953(昭和28)年12月	創立25周年記念事業のひとつとして図書館の建築が計画され、久留米大学附属図書館医学部分館が建設に着手した。翌29年6月に落成した。建物は鉄筋コンクリート3階建て、建築面積600㎡で、1階は学生閲覧室、2階は出納室、事務室、3階は教授閲覧室、館長室、複写室、書庫は2階3階にわたり3層からなり、面積は258㎡であった。
1966(昭和41)年10月	めざましい医学の進歩は文献量の増大を招き、書庫等の狭隘化を招いた。石橋正二郎理事長の好意により医学図書館が寄付された。昭和41年10月着工。
1967(昭和42)年7月1日	昭和42年6月末に完成し、7月1日落成式が行われた。新図書館は建築面積2780㎡の鉄筋コンクリート造り3階建て、新図書館の建築に当たっては、過去2回にわたる水害の苦い経験を考へて、2階3階が図書館に当てられ、1階は合同講義室、臨床検査専門学校等、2階は閲覧室、事務室等々、3階は館長室、特別閲覧室、医学資料展示室、視聴覚室等が配置されている。書庫は536㎡で20万冊の収容能力をもち、しかも閲覧室は冷暖房設備が整っており、医学関係文献の増強と相俟って図書館機能は飛躍的に増大し研究、教育に寄与する事が期待される。
1994(平成6)年	看護学科設置に伴い1階閲覧室(252.4㎡)を増設、60席を新設し既存の124席と合わせて184席の閲覧席を利用者に供している。
1998(平成10)年	図書館業務用システムが部分稼動(IBM)
1999(平成11)年	図書館業務用システムが本格稼動(IBM)
1999(平成11)年10月	図書館内の合同講義室(248.28㎡)を書庫に転用し、約11万冊の蔵書収容が可能となった。
2000(平成12)年	平日の20時閉館を1時間延長して21時までとした。併せて土曜日曜を10時～17時まで開館としたことで開館日数が340日超となった。
2001(平成13)年	Nature関連誌3タイトルを導入し、電子ジャーナルの幕開けとなった。
2002(平成14)年9月	リコーLIMEDIOシステム稼動
2003(平成15)年	外装塗装に続き、閲覧室の天井の塗り替え、カーペットの敷き替え等の館内改装で利用者へ明るい雰囲気の利用環境が整備された。
2005(平成17)年1月	Webサービスを開始し、利用者からの依頼にインターネット上で応えることが可能となった。
2005(平成17)年5月	2階屋上防水工事の完成で、知的財産を雨漏りから守ることができた。
2005(平成17)年	外国雑誌の高騰化問題で、以前から希望が多かった電子媒体での提供に切り替えた。
2006(平成18)年4月	卒業生と筑後医療圏の医療従事者等に、登録制で医学図書館を開放した。
2006(平成18)年4月	スカイパーフェクトTVを契約し、医学・医療番組ケアネットが3階視聴覚室で随時視聴できるようになった(～平成21年(2009
2006(平成18)年	外国雑誌の80パーセントを電子ジャーナル版のみの提供とした。
2007(平成19)年8月	ポータルサイトを作成し、マイライブラリーが開始された。
2007(平成19)年8月	事務室一部をオープンカウンターへ改装し、管理部門とサービス部門を分割させ利用者サービスを充実させた。
2007(平成19)年9月	リコー新LIMEDIOシステム稼動
2012(平成24)年	外国雑誌の90パーセントを電子ジャーナル版のみの提供とした。
2013(平成25)年8月	リコー新LIMEDIOシステム稼動
2014(平成26)年8月	試験期間月間(8・9月、1・2月)土曜日曜開館時間3時間延長し、11時～21時までとする(試行)
2014(平成26)年10月	利用者目線にたった医学図書館案内動画をYouTubeを介して学内外に公開
2015(平成27)年4月1日	医学図書館イメージキャラクターイトアくと医トえもん誕生
2015(平成27)年5月	学生モニター制度を開始。年間2回(春・秋)学生モニターと医学図書館長・職員との意見交換会を実施
2015(平成27)年7月	試験期間期間(7/18～9/20、1・2月)土曜日曜開館時間3時間延長を本実施。また開館時間を2.5時間早め、8時30分～21時までとする(試行)
2015(平成27)年12月	第17回図書館総合展の図書館キャラクターグランプリ『見た目部門』に医学図書館イメージキャラクターイトアくと医トえもんをエントリーし、協賛社賞『Over Drive Japan賞』を受賞。